



ぶらんこ

令和4年5月24日(火)
おおむたこども園 NO5
山元 紀代美

初心に戻る

5月2回、(6月2回)、高鍋町の「なでしこ保育園」の見学を受けました。去年の今頃も「おおむたこども園を見学させてください」と電話で連絡がきました。高鍋の保育園からで、園の職員は誰も知らず「どこからの情報ですか？」とお聞きすると「ホームページを見て共感しました」と若い園長さんからでした。

去年は、都城市内の4カ所の園から同じく連絡がきました。3歳未満児いちご組の「育児担当制」3歳以上児のぺんぎん・ぱんだ組の「子どもが主体の活動」そして、室内と園庭の保育環境をご覧になりました。毎回3～5名ほどの保育教諭と園長・副園長の方々が来てくださり、私と副園長の竹之下で園の方針・保育について説明をしました。どこも、自園の保育の在り方を模索しているようでいろんな質問を受けました。

園長さんの話を伺うと、

1. 子どもがもっとのびのびと遊べる環境を作っていきたい。
2. 大人の指示を待つのではなく、自分で考えて遊べる子どもにしたい。
3. 自分の思いをしっかりと伝えられる環境を作りたい。 などいろんな思いを聞かせてくださいます。

自分たちが「一斉保育」から「子どもが主体の保育」に方向転換をするときにも、たくさんの葛藤がありました。どこから手を付けていけばいいのか？ 職員の思いを一つにするにはどうしたらよいのか？・・・何よりこれから日本の未来を担っていく子ども達にとって、幼児期の関わり方はどうあるべきなのか？たくさんの著名な先生方の講演会に足しげく通い、同じ思いを抱く先駆的な園の見学に行き、都城市の同じ方向性のこども園と意見交換・公開保育を繰り返し・・・現在のかたちになりました。そして、これまでの保育の成果が少しずつ出てきたのかなぁ・・・と思っている所です。ホームページの子ども達の元気に遊ぶ姿・保育方針に賛同して見学依頼が増えてきました。

このような経験から、毎回、初心に戻ることができます。いろんな質問に答えながら「あっ！ここがぐらつきはじめたな！」「大人がいいお手本になっているかな？」「この行動(言動)は丁寧ではないな！」とかいろいろな振り返りがあります。とても勉強になります。

社協子育て応援課の保育理念である

*自分らしい「わくわく」を

ありのままの自分を大切に「主体的・対話的・深い学び」

からだ・・・あそびを身体で感じ、生きる力を

こころ・・・ひたすら子どもを慈しみ、自己肯定感を

あそび・・・ゆったりの時間とたっぷりの経験を子ども達に

を繰り返し頭の中に叩き込みながら

ら日ごろの保育を大切にしていきたいと改めて思うことです。

更に、社協子育て応援課の職員としてどうあるべきか？ということについて行動指針があります。

あ・・・愛着形成で丁寧な関り

い・・・一緒に子どもと遊ぶ

う・・・受け入れよう子どもの個性

え・・・エレガントなセンス・モデルを示す

お・・・穏やかに待つ、子どもの自己選択・自己決定 があります。

今日も、午後から、主幹保育士の2名の職員が、小中学生向けの「福祉教育」の授業で私たちの保育について出前講座に出かけていきました。これも結構好評で年に3～4回あります。中学生が小さいころに戻って、積み木を積んだり、駒を回したり、剣玉をしたり、ままごとをしたり・・・生き活きとした表情で話を聞いたりしてくれています。

自分たちがどういった思いで、日々子ども達に接しているのか？ 他の園の職員や保護者にしっかり説明ができる職員になって欲しいと思います。そこが保育の専門職としての私たちの使命だと思っています。若くても、結婚はしていなくても・・・大丈夫。自信をもって子ども達と接してほしいと思っています。

マスク着用について

*園庭でのマスクの着用については、熱中症になるリスクが高くなりますので、場合によってはマスクを外すこともあります。室内ではマスクを着用しますので毎日、マスクは持たせてください。記名があると助かります。